

みちの会だより

第5号

1995年6月15日発行

地域開発みちの会

本年度テーマ 見つめよう 女と男の生き方

会長 吉岡 繁代

4月15日、みちの会総会後の第1回全体会において、平成7年度の学習テーマは「見つめよう女と男の生き方」と決まりました。そして、今年は9月に「第4回世界女性会議」が北京で、また本県でも記念行事として「地域フォーラム」が計画されています。

初回の世界女性会議がメキシコで開催されてから20年。女性問題はずいぶん改革されてきていると思います。それに対する思いは、皆さんそれぞれにあると思います。

先日の神津カナ氏の「現代に生きる女学」と題した講演の中で「女性本来の姿は三百年前も今も、そう変ってはいないと思う。」という話されました。そして「良い妻になろうとすると自分の仕事は出来ない。男の人に理解してもらうには、惜しまない努力をしなければならないし、また自分の家庭の中から改革しなければならない。」とも話されました。うなずきもし考えさせられも致しました。そう言えば「自立とは自分が幸せと思うこと、また自分自身を楽しむことだ。」と社会学者の落合恵美子氏も言うておられました。

みちの会も、毎年すばらしいテーマを設定し、それについて勉強して、一つ一つ歴史を積み重ねてきました。「みつめよう…」のもとに今年も実りある一年でありたいと思います。手綱はピンピンに張ってばかりいるとコントロールが出来ない。時には弛めることによって先も見え、コントロールが出来るものだと申します。楽しく和やかに、そして連帯感の中で学習してまいりたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。

◎…☪…☪…☪…↑…☪…☪…☪ 本年度事業予定 …↑…☪…☪…☪…↑…☪…☪…☪

- ? 第1回 学習会 6月30日(金) 10:00~ 半田市福祉文化会館視聴覚室 ?
- ☪ 講師 近藤良三氏(愛知県議会議員) ☪
- ! 話題 「女と男の生き方」男の立場より !
- ☪ 出欠を電話連絡網の先頭の方へ6月26日までにご連絡下さい。 ☪
- ? 第2回 学習会 7月24日(月) 10:00~ 阿久比町オアシスセンター(駅東 500m) ?
- ↑ 講師 池田桂子氏(弁護士) ↑
- ! 話題 「女と男の生き方」女の立場より !
- ☪ 出欠を電話連絡網の先頭の方へ7月21日までにご連絡下さい。 ☪
- ? 第9回 知多・名古屋女性フォーラム 9月30日に阿久比町で開催します ?
- ☪…☪…☪…↑…☪…☪…☪…↑…☪…☪…☪…↑…☪…☪…☪…↑…☪…☪…☪…↑…☪…☪…☪

おめでとうございます

4月23日実施の統一地方選挙で

瀬瀬信子さんが阿久比町議会議員(2回目)に、杉江節子さんが常滑市議会議員(初回)に夫々めでたく当選されました。女性の代表として今後のご活躍に期待しましょう。

みちの会だより発行にあたって

紫陽花の花が雨にうたれて美しい頃になりました。しとしと降る雨は昨年盛夏の渇水の厳しさを思い出しますと、恵みの雨と思え有り難いとも思えます。さて、本年も昨年同様に「みちの会だより」を発行することになりました。皆様からの情報、投稿をお待ちしておりますのでどうぞ宜しくお願い申し上げます。(担当者 吉岡繁代・片山澄子・坂野信子・水上規子)

婦人週間フォーラム

女性の自立や社会参加について考える「婦人週間女性フォーラム」が5月24日、名古屋市東区東桜テレビアホールで開かれました。みちの会より星さんが実行委員として参画されました。ご苦労様でした。山本さん（昼の部）、星さん（夜の部）より感想文を頂きました。

時代を生きる女学

昼の部は「時代を生きる女学」と題して神津カナ氏が講演された。音楽家の神津善行氏を父親に、女優の中村メイコ氏を母親にもつ超多忙の家庭に育った作家の神津カナ氏は女だから、男だからでは済まされない環境の中で育てられた。夕食時になっても誰も台所に立たない。作曲が大詰めの父、台詞覚えに懸命の母、原稿締切に追われるカナ氏、あとは収入も無く締切も無い学生の弟が作る他はない。弟も自然に自立し、現在は画家として外国生活を楽しんでいる。

1800年代の女流画家ジュールサンドの生き方を見ると、女性問題は200年前も現在も殆ど変化していない。それは、生活条件によって様々な問題や相違があり、一口には片付けられない。ジュールサンドはその時代の恋多き女性であり、最後の恋人はショパンであった。ショパンはジュールサンドとの時代に素晴らしい作品を多く残しているという。それは、彼女が多く時間を費やし、彼に尽くしていたため、この時期に彼女は作品を残さなかった。彼女はこれに気づきショパンと別れることになった。

また、知人の豪華客船の船長は、長い航海をするとき、コックには一流と三流とが必要であると語った。世界一周には気候や風土、料理の材料、体調など様々な状況の変化がある。どんな条件でも料理の味が変わらないのが一流の一流たる所以である。三流（という表現はよくないが）とは、一流の逆とまではいわないが毎日々々味が変わる。いわば家庭料理の味である。長い航海の中には一流の味だけでは不思議とお客様から不満がでる。そこで三流コックの出番となる。女性問題もこれと同じで自分がどう生きるかをきちんと考え、自分らしく生活することが大切である。母方の祖母姉妹は明治生まれであるが、女も職業を持たなければいけないと考えていた。だから中村メイコ氏の生き方は当たり前で何の違和感もないとカナ氏は語った。（山本 隆子）

それぞれのライフスタイル ～女性の自立をめざして～

夜の部は「それぞれのライフスタイル～女性の自立をめざして～」をテーマに、江原由美子氏（東京都立大学助教授）と竹信三恵子氏（朝日新聞記者）によるトークショウが行われた。

江原氏は「女性のデータブック」から未婚率、30代男性40～50%、女10～20%と全体に高いことを挙げ、生き方が多様化している時代背景のなかで、男女の賃金格差は、オーストラリアでは男性100に対し女性は90.9%、イギリス 100対70.3%、日本においては 100対58.9%であり、同じ仕事をしていても差の大きいことを挙げられた。また、女性の政治参画率は、スウェーデン33.5%、オランダ29.3%に較べて、日本は 2.7%と低いことをデータが示している。

竹信氏は、パートは正社員並みに働いているが、賃金格差が大きく、管理職では女性が少ない。日本は経済的に女性が自立しにくい国だが、飢えることはないからいい国である。アジアの近隣諸国では食べるために共働きが多く、色々な問題を一杯もっていて深刻である。外国から日本に出稼ぎに来ている人々が、日本でどのように扱われているかも問題であると話した。

「女性が、自分で生き方を決めることができるか。」との質問に、江原氏は「経済的な自立だけではなく、精神的な自立が必要。男性も含めて生き方を変える努力が大切。男性の家事の時間が20分と少ない現実。女性問題は自分の身の回りのことなので一番むづかしいが、そこに止まっているとつぶされてしまう。自分らしくさっそうと輝いて生きよう。」と話され、仕事を持つ同年代の女性の多い夜の部の参加者から共感の拍手がおくられていた。（星 利子）